



基地強化反対の運動を交流した日本平和大会開会集会 10月28日「赤旗」提供



No.521

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
編集発行人 田中幹夫

〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・全労連会館  
電話 03(5842)6461  
FAX 03(5842)6462  
E-mail  
chian@bz03.plala.or.jp  
頒価 50円

## 安倍政権の改憲策動許すな！ 2万人めざし会員拡大に力の集中を

日本の針路に重大な影響を与える総選挙（10月22日投票）が行われ、自民党が284議席を獲得し、公明党、希望の党、維新の会の改憲勢力は、374議席、全議席の8割超を獲得しました。

一方、総選挙直前に、民進党の希望の党への合流に見る野党分断攻撃が仕掛けられました。この逆流を乗り越えて、立憲民主党、日本共産党、社民党、「市民連合」は、安倍政権による9条改憲反対、秘密保護法、戦争法、共謀罪など憲法違反の法律廃止、福島原発事故の検証がない原発再稼働反対など、7項目の共通政策を確認し、各地域で統一候補を擁立。90議席前後を獲得しました。

安倍首相は、改憲を「スケジュールありきではない」といながら、来年の通常国会での改憲発議と、秋の国民投票実施に照準を合わせています。

わが同盟も参加する「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」のよびかけた3000万署名がますます重要です。国賠署名をセツトにして取り組みの先頭に立ちましょう。

創立50周年記念日まであと4カ月。2万人の同盟建設めざし、映画「種まく人びと」上映会、学習会などと結んで、支部建設、会員拡大に特別の力を集中しましょう。

今こそ同盟の真価を発揮するときです。

### 主な記事

- 各地でブロック会議 ..... 2
- 私も一言／前田 朗・国連拷問禁止委員会に参加して ..... 3
- 顕彰碑／北海道八雲町に建つ 鶴田知也文学碑 ..... 5
- 抵抗の群像／永村徳次郎・不屈の生涯 ..... 6
- 同盟文芸／短歌・俳句・川柳 ..... 7

# 各地でブロック会議 (続) 同盟活動前進への活力

## 関東ブロック会議東京で

10月23、24日東京江東区で開かれました。当初予定が、衆院投票日とぶつかり一日延期しました。

来賓の山添拓日本共産党参議院議員があいさつ、つづいて山田朗・明治大学教授による記念講演「国民にとっての『明治150年』とは」。

明治時代に歴史を政治的に作られた、およそ天皇は100歳以上になる計算。日露戦争は、軍艦も弾薬も外国から買った、この費用は国民への重税でまかなわれた。



「明治の歴史は太平洋戦争への道」

この戦争に反対するものを治安維持法で弾圧した。このみちを跳ね返す力は、国民が声をあげることに

活動交流では、各県で支部作りで前進、50周年向け会員拡大へのとりくみが報告されました。

群馬県本部は事務局局長が、衆院候補のため不参加でした。

オプショナルツアーは、関東大震災の時、南葛労働組合員など10人が虐殺された亀戸事件のフィールドワークをおこないました。

講演・フィールドワークとも好評でした。

## 九州・沖縄ブロック会議福岡で

九州・沖縄ブロック会議が10月3、4日の2日間、福岡市内で開かれ18人が参加しました。

初日は、増本一彦本部長が「今日の情勢と同盟の任務」と題して報告し、内田博文・九州大学名誉教授(刑法学)は、「治安維持法と共謀罪」について講演。

内田名誉教授は、治安維持法の取り締まり対象は、はじめは「結社」、つぎは「ものを考える人や宗教人へと広げられました」とのべ、取り締まり内容も拡大され、さらに

取り締まり対象がなくなると、「密告」が奨励されるようになりまして、と語りました。この教訓から

学ぶことは、「国民が警察を監視するシステムをつくることです」と強調し、「共謀罪」は国連から警告をうけています。「共謀罪」

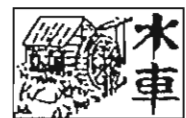
法廃棄は国際連帯でたたかうことが重要と述べました。

2日目は、各県の活動について交流しました。

## 東海ブロック会議三重で

東海ブロック会議が10月5、6日、三重県の湯ノ山温泉で開かれ、会議には、静岡、愛知、岐阜、三重の各県から80人が参加しました。

会議は、開催地の同盟県本部、菰野町の観光課長、共産党町議の挨拶のあと、三重県大学名誉教授の西川洋氏が三重県で発掘されたたたかひの歴史の資料を紹介。(3ページへつづく)



## 水車

突然の総選挙の結果が出た。悔しい気分でしたら、小林一茶の名句「もたいなや昼寝してきく田うゑ唄」が浮かんだ。「もたいな」という農家の一大行事と同じ政治のチャンス(選挙)に、国民の怒りを結実し

えなかつたからだ。しかし、独裁政治に対抗すべき「市民と野党の共闘」のあるべき姿が、明確になったのは今後の課題となるだろう▼狂言「舟渡り」公演を観た。婿入りのため、舅宅に向かう湖上、舟頭は婿が土産に持つ酒樽に目をつけ舟を揺らして脅かし酒をせびる。舅宅に着いてびつくり。船頭がじつは舅。露見して面目を失う舅に、婿が「どうせ酒はあなたに進上するためだった」ととりなし祝言の舞と謡で終わった。野村万作・萬斎父子の熟達した芸風だった。▼「立憲野党+市民」の共同の「舟」は、すぐ、メデタシとはいかない。でも優れた詩歌や古典芸能をもつ日本人の良識が、真の力となることを信じ、闘いの再スタートだ。(澤)

(2ページからのつづき)  
 「三重県の農民運動と治安維持法」と題して講演しました。  
 このあと、同盟本部副会長の若山晴史氏が「DVD『種まく人びと』を観て思うこと」と題して講演。若山氏は、「歴史から学ぶ」

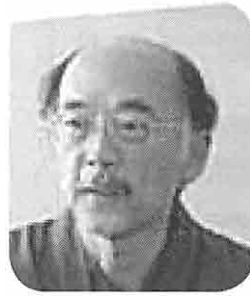
「人間から学ぶ」と言う2つの角度から話をすすめました。「歴史も学ぶべきものがあります、と語

度から話をすすめました。「歴史も学ぶべきものがあります、と語

から」は、弾圧犠牲者を平和・人権・自由のたまたかの歴史に正當に位置づけること、「人間から」部の発言があり、夕方からの懇親

は、不屈の闘士の足跡だけでなく、会ではなごやかに交流しました。

映画に登場する特高警察官がなぜ 2日目の分散会では、各県の活



ジュネーヴのレマン湖畔のパレ・ウィルソンと呼ばれる建物、国連人権高等弁務官事務所が置かれ、年中、各種の人権委員会が開催

拷問禁止委員会は拷問等禁止条約に従って設置された専門家委員会、条約を批准した政府は、条約履行状況について報告書を提出し、委員会による審査が行われます。

日本政府はこれまで2回、審査を受けました。2007年審査では、日本政府の拷問の定義が条約と異なること、代用監獄を利用した取調べが無罪の推定や黙秘権に影響を与えていること、刑務所

## 国連拷問禁止委員会に参加して

前田 朗

私はNGOの一員として1994年から20年以上ジュネーヴに通ってきました。

当初は日本軍「慰安婦」問題や在日朝鮮人に対する差別問題をアピールするためでした。治安維持法・賠償同盟の皆さんと一緒に活動させていただきました。

最近では日本におけるヘイト・スピーチ問題や福島原発事故被災者の権利について国連に報告しています。

第3回の報告書審査に向けて共謀罪や安保法制の人権侵害状況を国連に報告していく必要があります。(東京造形大学教授)

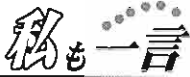
## 四国ブロック会議香川で

四国ブロック会議が9月30日と10月1日の2日間、香川県にある国民宿舎・栗林山荘で行われ、38人が参加しました。

第1日目のパネルディスカッションでは、中央本部の有川功副会長は憲法問題で治安維持法犠牲者等の闘いによって実現した内容について報告しました。各県からは治安維持法犠牲者について発言がありました。香川県の末光甲正さんが児童文学作家・村山壽子について発言しました。

末光さんは、「村山壽子は、今年生誕114年、没後71年で43年の生涯でした。小林多喜二たちと治安維持法という凄まじい弾圧の時代に命がけで生きぬいた人で、ハイカラに純真な心で生きた人でもありました」と語りました。

2日目は、有川副会長が、創立50周年めざす同盟の取り組みと、四国ブロック各県の役割と期待について発言しました。



# 同盟50周年成功へ県本部大会 (続報)

各地の県本部総会を10月号までに12県を紹介しました。本号では、21の県本部総会のデータのみを掲載します。

【千葉県】9月9日、第44回総会。参加者23人。目標：署名8000人、会員3000人。女性部結成、船橋支部再建、東葛、匝瑳、君津で支部結成。会長・小松実(新)、事務局長・中村日出丸(再)。

【青森県】7月8日、第28回大会。参加者38人。目標：署名8000人、会員465人。会長・館田篤広(再)、事務局長・鎌田哲成(再)。

【秋田県】5月25日、大会。参加者46人。目標：署名9000人、会員3100人。【福井県】10月8日、第30回総会。

5人。会長・最上健造(再)、事務局長・伊藤紀久夫(再)。

【岩手県】7月25日、17年大会。参加者44人。目標：署名4000人、会員315人。石巻支部結成。会長・牛山靖夫(再)、事務局長・牛山靖夫(再・兼務)。

【宮城県】7月29日、第27回総会。参加者18人。目標：署名4000人、会員250人。会長・横田有史(再)、事務局長・未選出。

【東京都】9月9日、第40回大会。参加者50人。目標：署名3000人、会員1300人。会長・吉田万三、事務局長・中嶋晋雄(再)。

【長野県】7月19日、第42回総会。参加者28人。目標：署名2900人、会員566人。会長・柄沢義郎(再)、事務局長(代行)・柄沢義郎(再)。

【富山県】9月11日、第33回定期総会。参加者9人。目標：署名2000人、会員1000人。「種まく人びと」上映。会長・丸山隆(新)、事務局長・小森修(再)。

【滋賀県】6月17日、第29回総会。参加者23人。目標：署名5000人、会員70人。会長・島田耕(再)、事務局長・西田清(再)。

【京都府】9月30日、第32回総会。参加者30人。目標：署名10000人、会員7000人。会長・宮城日出年(再)、事務局長・三原哲(再)。

【大阪府】6月23日、第36回大会。参加者82人。目標：署名26000人、会員24000人。会長・有

参加者25人。目標：署名2500人、会員1000人。講演：メデイアはだれのものか(佐野周一氏)。会長・西村明宏(再)、事務局長・村井慶三(再)。

【岐阜県】7月5日、第30回大会。参加者18人。目標：署名14000人、会員510人。会長・片桐義之(再)、事務局長・赤星守雄(再)。

【愛知県】8月27日、第30回定期総会。参加者40人。目標：署名10000人、会員8000人。民進党・日本共産党・社会民主党あいさつ。名古屋テレビ取材・放映。会長・西田一廣(再)、事務局長・若山晴史(再)。

【滋賀県】6月17日、第29回総会。参加者23人。目標：署名5000人、会員70人。会長・島田耕(再)、事務局長・西田清(再)。

【京都府】9月30日、第32回総会。参加者30人。目標：署名10000人、会員7000人。会長・宮城日出年(再)、事務局長・三原哲(再)。

【大阪府】6月23日、第36回大会。参加者82人。目標：署名26000人、会員24000人。会長・有

川功(再)、事務局長・塩田一行(再)。

【岡山県】8月27日、第30回大会。参加者60人。目標：署名10000人、会員3000人。講演：山宣の生涯(藤田廣登氏)。会長・小山博通(再)、事務局長・福井正樹(再)。

【香川県】9月9日、第31回総会。参加者35人。目標：署名10000人、会員2000人。会長・太田展生(再)、事務局長・田中和夫(再)。

【福岡県】9月3日、第23回総会。参加者10人。目標：署名12950人、会員4000人。「種まく人びと」上映。会長・石村善治(再)、事務局長・上田実(再)。

【熊本県】9月10日、17年総会。参加者30人。目標：署名5000人、会員1500人。会長・小田憲郎、事務局長・関根隆(再)。

【宮崎県】7月20日、第28回総会。参加者15人。目標：署名4000人、会員1500人。会長・日高脩(再)、事務局長・天水貞照(再)。

【沖縄県】2018年2月開催予



千葉県本部第44回総会

参加者23人。目標：署名8000人、会員3000人。女性部結成、船橋支部再建、東葛、匝瑳、君津で支部結成。会長・小松実(新)、事務局長・中村日出丸(再)。

【福井県】10月8日、第30回総会。

【大阪府】6月23日、第36回大会。参加者82人。目標：署名26000人、会員24000人。会長・有

【沖縄県】2018年2月開催予

**顕彰碑**  
探訪

# 北海道八雲町に建つ 「鶴田知也文学碑」

北海道南の八雲町、ユーラツブ河畔、ピンニラの丘に人の背ほどの文学碑が建つ。戦前のプロレタリア作家として「コシヤマン記」が芥川賞を受賞した(1936年)鶴田知也の記念碑で、同町内外の人々の手で85年(昭和60年)に建てられた。

碑面の「不遜なれば未来の<sup>こぼれ</sup>悉を失う」と揮毫した鶴田も除幕式に参列した。鶴田は22年夏、6カ月ほど八雲に滞在。この時の取材をもとに、アイヌ独立戦争の悲劇的な物語を小説「コシヤマン記」に



した。同町の大新墓地には分骨を抱く「ここに鶴田知也眠る」と刻んだ墓碑もある。

鶴田は戦前、作家・葉山嘉樹らと知り合い名古屋で労働運動にたずさわり、キリスト教的ヒューマニズムからマルクス主義に斜傾。名古屋共産党事件(23年)では検挙を免れ、朝鮮・大邸を放浪、3・1独立運動に共鳴している。27年、『文芸戦線』に加入し創作活動。同人誌『小説』に発表したのが「コシヤマン記」。

45年に秋田県横手町(現在、市)に疎開。戦後、左派社会党から衆院選や横手市長選に出た。1988年、86歳で死去した。

今年10月、国際啄木学会大会が同町で開催され、参加者が鶴田の文学碑、墓碑を訪れた。

(編集部・澤田勝雄)  
(交通)JR函館本線八雲駅下車

## 草の根の交流が広がった平和連帯の旅

10月16日から4泊5日の天津・北京の平和連帯の旅が全国から23名の参加のもと実施されました。同盟の旅に初参加は6名で7割はリピーターでした。例年と比べて一泊短縮したり、移動時間も短く、ゆったりとした日程での旅になりました。

日中全面戦争開始80年という節目の年に、戦争開始の契機となった盧溝橋の現地を訪ねて、さらにリニューアルされた抗



在日殉難烈士劳工記念館(被害者の遺族とともに)

今回の旅のメイン・イベントは天津の在日殉難烈士劳工記念館の見学と強制労働の被害者(一人)と遺族と研究者と運動のリーダーの人たちとの交流懇談をしたことです。西松建設や三菱マテリアルなど3社とは和解解決できたところがあるが、大半は正当な契約による労働であって損害賠償はなじまないとする日本側の言い分によつて未解決のままとなっています。

同じ戦後補償の実現を求めるとして、共通した思いと連帯を共有する懇談となりました。

この旅を通して2名の方を同盟に迎えることができました。

(国際部 菅野亨一)

## 抵抗の群像



## 郷土の共産黨員一号

## 永村徳次郎・不屈の生涯

「…この男は三・一五の被告で、

娑婆へ出てきたときは狂人であつたが、以前は電車の車掌だつた。

鷲尾より2、3年下の、同じ小学校出で、このひどく変わった容貌をみて、微かに幼顔が憶い出させたが、…六七年前、熊本市の市電争議の指導者だつた当時の彼の風貌がどこにあるのだろうか……」

この文章は、熊本出身のプロレタリア作家、徳永直が1934年に発表した小説『冬枯れ』の一節である。

永村徳次郎は1900(明治33)

年に、いまの熊本市坪井に生まれた。小学校を卒業すると家計を助けるために坪井郵便局の少年集配夫となった。当時、郵便局の集配人は「郵便配達夫が人間ならば、電信柱に花が咲く」などと蔑まされていた。徳次郎は仲間からも人望があり、部下思いでやがて監督

に昇進した。

時代は、1917年にロシア革命が勝利し、労働運動や社会主義運動が高まりをみせていた。熊本でも徳次郎らによる「労働者懇談会」をはじめ、熊本水平社、熊本無産者同盟、印刷組合など本格的な労働組合、社会運動組織が活動を開始した。

徳次郎のいる坪井郵便局でも研究会が開かれ、徳次郎も参加し社会主義に接していった。やがて熊本合同労組や労働党熊本支部が結成され、徳次郎は幹部となって活動を開始した。

坪井郵便局を辞めた徳次郎は熊本市電に就職し、車掌となった。

まもなく合同労組市電分会を組織し、先頭に立って劣悪な労働条件の改善に取り組んだ。そうしたなか、課長が朝礼で労働者の要求にふれて、「君たちが子どもをたく

さん産むから貧乏するのだ」と訓示した。

徳次郎はただちに「労働者に対する侮辱だ」と抗議し、待遇改善を要求した。課長は「上司に反抗した」として、即刻辞表を提出するように徳次郎に求めた。事実上の解雇通告だつた。

争議は多くの団体の支援のもとストライキに発展、弾圧と懐柔により争議団は敗北したが、徳次郎はこのたたかいで指導者として大きく成長した。のちに熊本労働運動史上画期的と評されるくらいにたたかいであった。

25年、国は普通選挙法と抱き合わせに治安維持法を成立させた。日本共産党は、侵略戦争に反対し、「二七年テーゼ」を決定し、大衆党としての組織の再建は急務とする方針をだした。

27年12月、九州地方委員長の藤井哲夫は九州の活動家4人を中央に申請し、翌年1月に承認された。その1人が徳次郎だつた。

普通選挙法での総選挙をたたかいた徳次郎らは1ヵ月後、治安維持法違反容疑で3月15日からいっせ

いに検挙された。熊本では数十人が検挙され、教人が有罪判決を受けた。

徳次郎は北九州に難を逃れたが、同地で逮捕され、言語に絶する拷問を受け起訴された。徳次郎は福岡関係の活動家とともに控訴審まで争い、懲役3年6ヵ月の実刑判決を言い渡された。

徳次郎は33年、諫早刑務所を出獄したが、特高の拷問により脳障害をおこし、廃人同様となつたまま1938年11月13日、38歳の若さで生涯を閉じた。

弾圧は徳次郎だけにとどまず、親族にも及んだ。永村家は「非国民」「国賊」の「家」であつた。一家は世間の視線を避けるため、「三・一五」弾圧の報道が解禁になつた28年4月、永村の姓を別姓に変えて暮さねばならなかつた。

いま治安維持法の現代版「共謀罪」が施行され、いつ暗黒社会が再現されるかわからない。二度とこんな時代に戻してはならない。

(熊本県本部事務局長 関根 隆)  
参考 梶原貞義著『永村徳次郎の不屈の生涯』

短歌

碓田のぼる選

放射能に怯えし孫娘らはふたたびの恐怖を語る「J

アラート」に(郡山市) 東京都 杵淵 智子

戦前の闘士作れる労働歌碑前に歌うギターバックに

岐阜県 和田 昌二

核兵器禁止条約に参加せし井上哲士の澄みし声聴く

静岡県 江川 佐一

「共闘の勝利」が我等に報いるは「九条守れ」の平

和の願い 岩手県 小杉 正夫

硬筆の稽古に泣きし息子なり五十を過ぎて母の手を

引く 大分県 渡辺 幹生

原爆の生き証人なり長崎の谷口稜暉の生涯八十八歳

島根県 小玉 信恵

山あれば谷もありとは言いつつも後悔多しわが人生

は 岐阜県 田中 良

秋の海サングゴ死なすなど辺野古基地抗う人を警官お

そう 福井県 元山章一郎

孫の世を案じて踏ん張る八十路なり病押しつつ更に

票読む 鳥取県 大久保禮吉

膝を立て身を乗りだす青年一人あり「種まく人びと」

鑑賞す同胞ときて 岡山県 中山 芳樹

〈選のあとに〉台風が相つぎ、秋の姿は見えかくれ

しているが、詩心ひるまず投稿に！ 啄木に秋の名

歌あり「秋の空郭寥として影もなし／あまりにさび

し／鳥など飛べ」

俳句

望月たけし選

秋澄みて九条にこそ希望あり

三重県 橋本しげる

平和賞に秋快晴のヒバクシャ

埼玉県 小池 荘八

言うだけの総理冷まじ拉致家族

石川県 野村 芳泉

秋灯下ひとりひろがる党の支持

神奈川県 天野三葉子

〈評〉一句目橋本さん、憲法論議が激化すると思わ

れるがこれしかない。二句目小池さん、世界語になっ

たヒバクシャ。永い活動の実りのひびき、快よい。

三句目野村さん、拉致問題、総理は口先だけ。

川柳

鈴木いさお選

共闘で安倍を倒せは天の声

埼玉県 小室 仁彌

〈評〉一強政治の弊害は目に余るものがあります。

野党共闘で何としても早く終わらせねば。

核なくす言えぬ総理は要りません

大阪府 大和 峯二

医療費増いずれあんたも年をとる

宮城県 根本 京子

顔てらす歩きスマホの夜の道

埼玉県 福家 駿吉

4年間待てど届かぬトリクルD

大阪府 佐々木雅博

大津・瀬田、上映会で入会

滋賀・大津支部

9月23日、支部幹事の川口八

朗さん宅(大津市瀬田)で、

「種まく人びと」川口小劇場

を開催。8名が参加のミニ集会。

「同盟の意義はじめてよく分

かった」との発言。戦争体験も

語られました。熱心に質問され

ました。(不屈 滋賀版17年10月号より)

釧路支部標茶班を14人で結成

北海道本部

広大な釧路支部では

班づくりが課題です。

9月15日、8月に入会

した女性も参加して14

人中7人が出席しまし

た。支部からは野瀬義昭支部長

代行、天城正則事務局長も参加

しました。野瀬さんが「新しい

戦前がはじまっている」と今日

の情勢を報告。全員が自己紹介

し、高齢者の一人は戦時中の教

育の在り方を話し、満州の引揚

者は、母の死と標茶開拓の苦勞

などが話され交流を深めました。



班に対し支部から同盟旗が贈

呈され、支部では近く「旗開き」

を行うと張り切っています。

(『不屈』北海道版17年10月号より)

# 米軍大型ヘリ

## 東村高江の民間の牧草地に墜落・炎上

総選挙公示翌日の10月11日、米軍大型ヘリが東村高江の民家から300m以上はなれていない民間の牧草地に墜落・炎上した。「琉球新報」は24日、「牧草の茂る事故現場には、ヘリの残骸を運んだ時のわだちが残っている。多くの県民が、気持ちや心を踏みにじられたと感じているはずだ」と報じた。県議会は、「ヘリパッド使用禁止、水源地や住宅地上空での飛行の団結した闘いをすすめ、県都那覇市をふくむ1区で共産党の赤嶺候補が自民、維新との激戦を制し、連続当選をはした。」

「米軍は、事故原因が解明されないまま飛行を開始、大きな怒りが広がっている。翁長知事も「米軍は県庁にきて、県民に謝罪すべき」「沖縄は日本国から守られていない」と憤っている。

総選挙で県民は、「オール沖縄」の団結した闘いをすすめ、県都那覇市をふくむ1区で共産党の赤嶺候補が自民、

### 年末の「財政活動強化」を心から訴えます

会員と読者のみなさん、日頃のご協力に感謝申し上げます。今年も残すところ僅かになりました。是非、年末の財政活動強化にご協力下さい。

- 一、全会員が本年度会費の納入にご協力を
- 二、創立50周年記念2000万円募金にご協力を
- 三、「年末募金」(1000円、10000円)にご協力を
- 四、新年名刺広告の組織・新規拡張にご協力を
- 五、「治安維持法と現代」「種まく人びと」など「同盟」発行の出版物の購読と普及にご協力を

ない。

選挙結果に確信

をもち、

ひきつづ

き新基地

建設反対

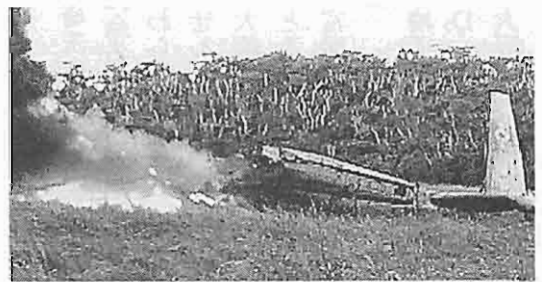
の闘いの

一翼を担

うべく、

決意をか

ためてい



(沖縄県本部 村山 純)

【訂正】本紙前号8ページ「沖縄県会議員 比嘉端尋」は「比嘉端己」に訂正いたします。

### 事務局日誌

10月3～4日 九州・沖縄ブロック会議

10月5～6日 東海ブロック会議

10月11日 「不屈」編集会議

10月16～20日 中国平和連帯の旅

10月23～24日 関東ブロック会議

10月24日 国際人権活動日本委員会

会幹事会

好評発売中

## 『治安維持法と現代』

2017年秋季号

【主な内容】「憲法を生かす」を政治の本流に＝石川康宏・神戸女学院大学教授。北朝鮮核問題の外交的解決を＝川田忠明・平和委員会。教育勸語、その歴史と問題点＝藤田昌士・元立教大学教授。(エッセイ)「大戦起る この日のために獄をたまわる」＝殿岡駿星・夢道研究家。治安維持法下の弾圧 群馬県「滝川村」の治安維持法犠牲者＝菊池誠一・昭和女子大学教授。松本平の治安維持法＝手塚英男。岡山の3・15弾圧と民主的医療運動の先駆者大栗清實＝松岡健一。治安維持法と弁護士－「労農弁護団事件」中心に＝関 勲。山宣を偲ぶ五泉の集い成功の教訓＝相沢寛。岩田義道研究会での10年＝飯田勇。資料大月源二の多喜二鎮魂の絵「走る男」について＝上野武治など。A5判 定価1000円、申込みは中央本部・各都道府県本部へ。

治安維持法と現代を結ぶ運動理論誌

発行 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟